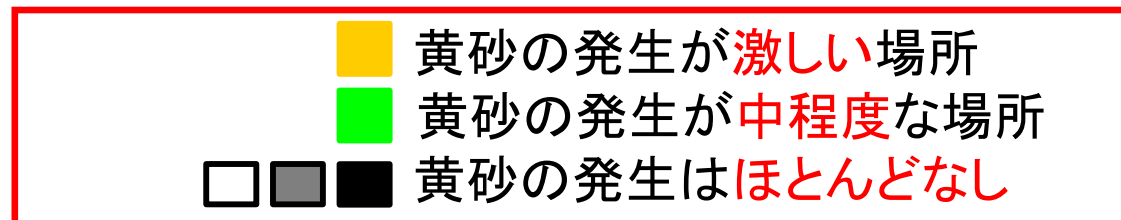
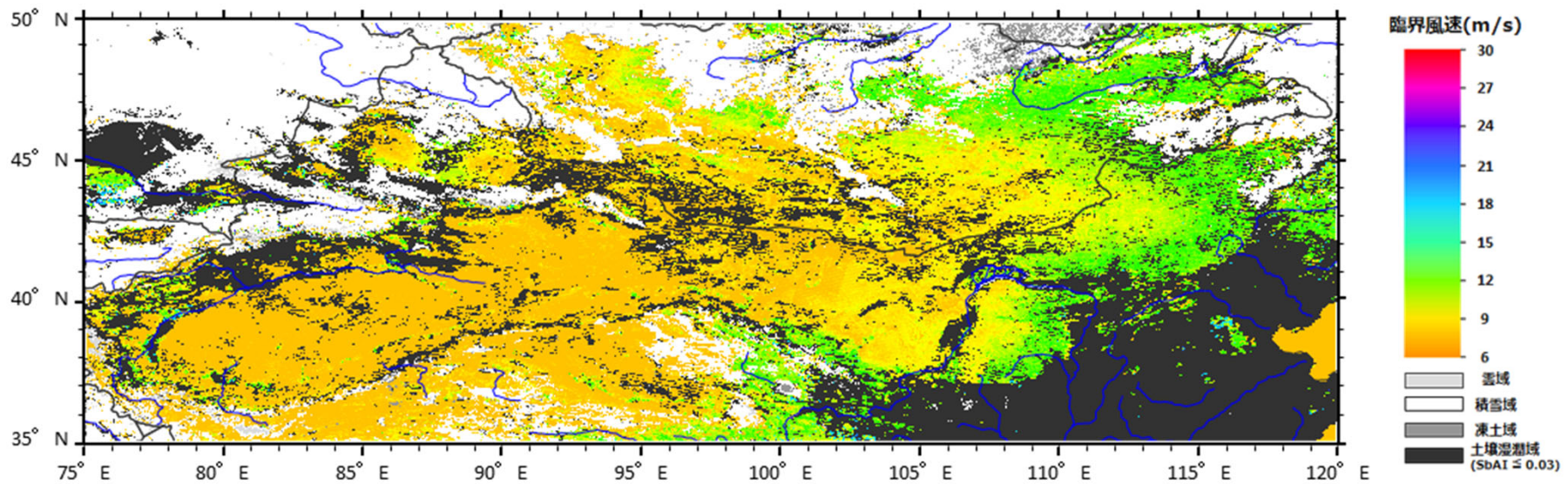


東アジア黄砂発生域の地表面監視

- 黄砂の発生源である**中国**や**モンゴル**を対象に、どの場所が発生しやすいかを**衛星で監視**しています。
- 黄砂は、**積雪**があったり、**地面が湿っていたり凍っていたり**、**植物が被覆**していたりすると発生しづらくなるので、そのような影響をすべて**衛星で分析**しています。

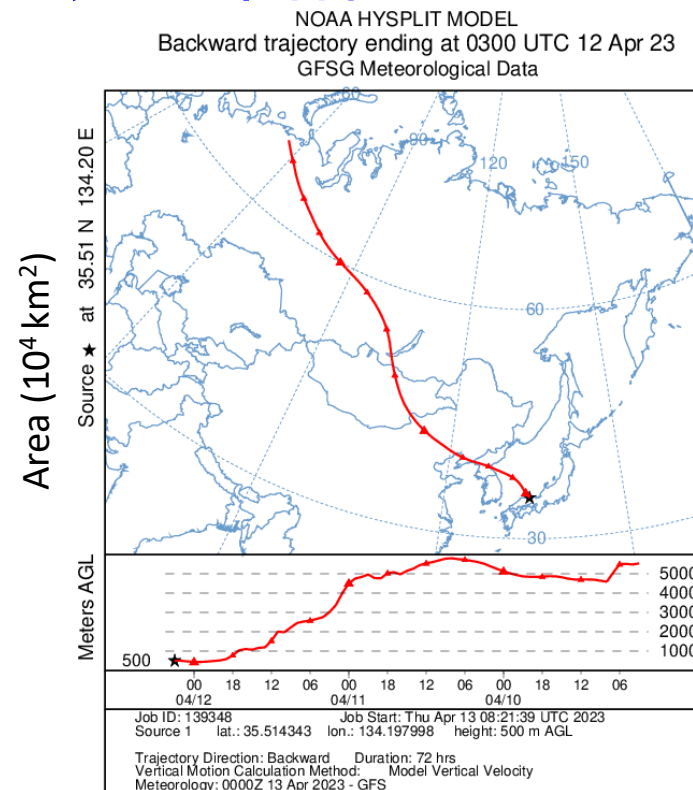
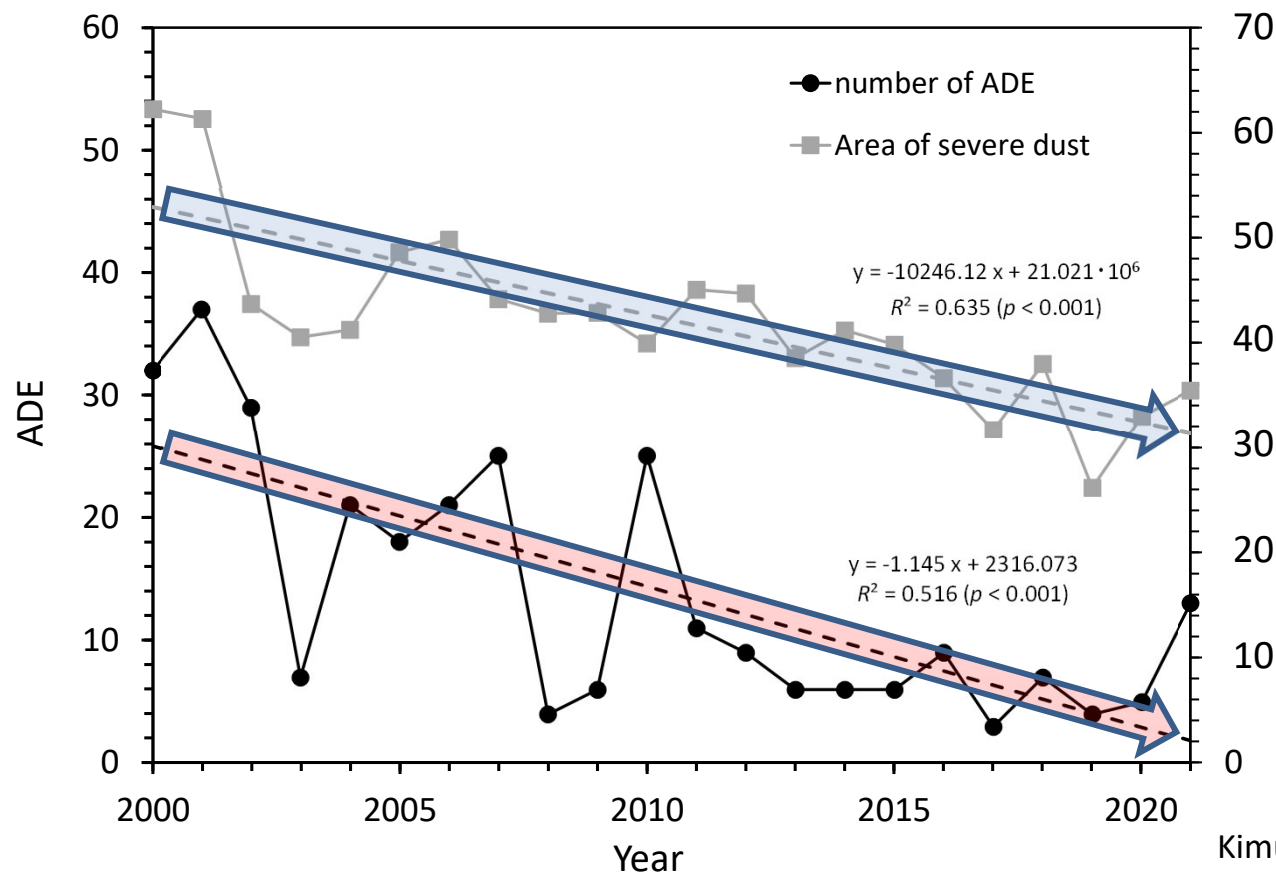
2015年3月の黄砂発生シーズンの例



Kimura et al. (2016)

★黄色や緑色の面積が増えれば、当然日本に黄砂が飛んでくる確率も高くなります

黄色の部分の面積と日本における黄砂観測日数との関係



- 日本における黄砂観測日数および黄色部分の面積は2000年以降減少傾向にあります。両者の相関関係は有意に高くなりました($R=0.74, p < 0.001$)。
- 2000年以降、中国における緑地面積は国家プロジェクトによる植林等が増加しています。日本における黄砂観測日数が減少している理由の1つとして考えられます。
- 右図に示すように、黄砂が発生する3~5月の風の軌跡、特に日本で黄砂が観測される場合の軌跡はモンゴルを通過することが多くなっています。この時期におけるモンゴルの草原の状態は注意深く監視される必要があります。